

首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会(第6回)

議事要旨

日 時: 2022年12月13日(火) 14:00~15:30

場 所: 首都高速道路株式会社 本社 9階大会議室

出 席: 委 員 長 前川 宏一(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授)

委 員 砂金 伸治(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)

石田 哲也(東京大学大学院工学系研究科 教授)

白戸 真大(国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長)

オブザーバー 森本 励(日本高速道路保有・債務返済機構 理事)

(小根山 裕之(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)、

村越 潤(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)は所用のため欠席)

議 事:

1. 中間とりまとめ報告書(案)

(主な意見)

- ・ 技術力の向上こそが、大規模更新・修繕事業をより早く、安く、効率的に進めていく切り札になるのではないか。
- ・ 新たな大規模更新・修繕の必要性和基本的な考え方について、「構造物の性能強化」、「補修・補強等のパッケージ化」、「予防保全型への移行」の位置付けを明確にすべきではないか。
- ・ 大規模修繕による補修・補強等のパッケージ化により、事後保全型の対応をせざるを得ない損傷などに対しても、同時に実施することが橋全体の合理的かつ経済的な維持管理性の向上や長期耐久性の確保に繋がるのではないか。
- ・ 羽田トンネルの抜本的対策により、車両事故による火災発生等のリスクが低下し、トンネル内の安全性や防災機能の向上に取り組んでいることを記載すべきではないか。
- ・ 大規模更新・修繕は長期間の交通規制や通行止め等を伴う工事が必要となるため、交通影響の軽減という観点から、既存ネットワークにおいて回可能な代替ルートを如何に確保するかが課題ではないか。
- ・ 広域的な回誘導の検討にあたっては、様々なシナリオを考慮しつつ、どのような状況でも対応できるよう料金施策等の交通マネジメントの技術的、制度的な基盤を固めていくことが重要ではないか。
- ・ DX の推進にあたっては、経年劣化に関する知見をデータとして蓄積しながら、新しい技術に果敢に挑戦した結果を常に適宜検証することにより、継続的に改善していくことが重要ではないか。

以 上